

平成16年9月15日
長崎県病害虫防除所長

【気象（平成16年9月10日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わりますが晴れの日が多いでしょう。期間の前半は残暑が厳しいでしょう。

向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並、日照時間は平年並か多いでしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	10	30	60
降水量	30	40	30
日照時間	20	40	40

* 予報対象地域：九州北部地域

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発生程度	
		現況	予想
普通期水稲	紋枯病 トビイロウンカ	やや少 少	並 やや少
大豆	べと病 ハスモンヨトウ (注意報第5号を継続) 吸実性カメムシ類	やや多 やや多 並	やや多 多 やや多
いちご	うどんこ病 炭疽病 アブラムシ類 ハダニ類(防除情報第10号) ハスモンヨトウ (注意報第5号を継続)	並 並 並 並 並	並 並 やや多 やや多 やや多
かんきつ	青かび病、緑かび病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ カメムシ類	- 少 やや多 やや少	やや多 やや少 やや多 やや少
茶	炭疽病 チャノコカクモンハマキ チャノホソガ	少 並 並	少 やや多 やや多
つつじ	褐斑病 ツツジゲンバイ	やや少 やや少	やや少 並

【普通期水稲】 ()内は平年値 [以下同じ]

1. 紋枯病

1) 予報内容

発生程度 並

- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月上旬の巡回調査の結果、発病株率は4.0% (5.7%)、発生圃場数は114筆中49筆であった。
 - (2) 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は11.0% (22.9%)であった。
 - (3) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. トビイロウンカ

- 1) 予報内容
 - 発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月上旬の巡回調査の結果、トビイロウンカの株当たり虫数は0.01頭(0.1頭)、発生圃場数は114筆中7筆であった。
 - (2) 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、トビイロウンカの株当たり虫数は0.1頭(1.4頭)であった。
 - (3) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

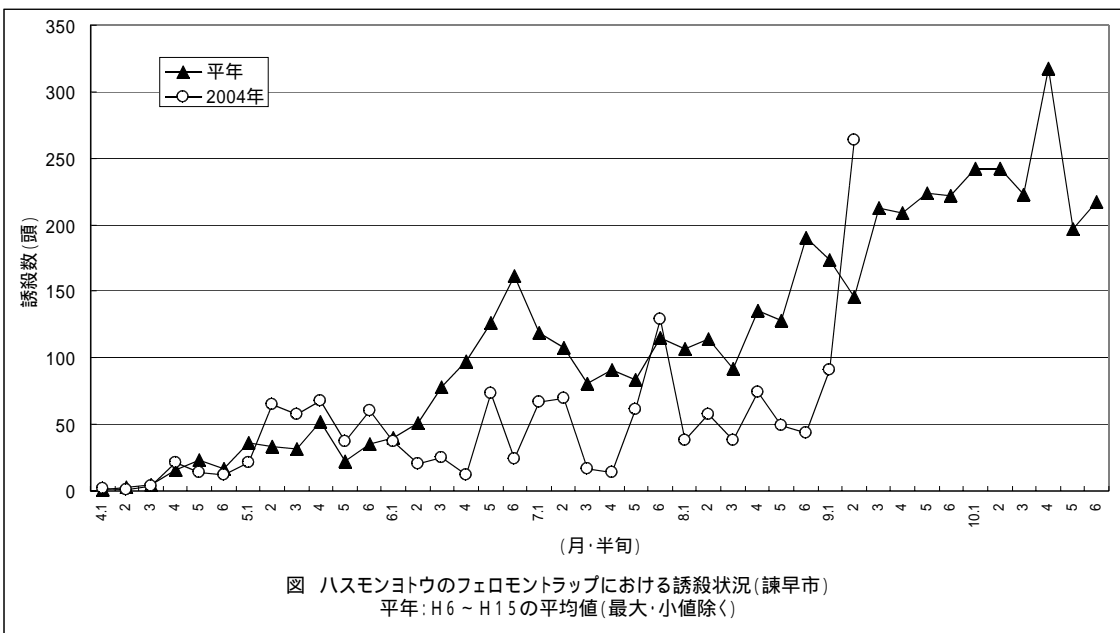
【大豆】

1. ベと病

- 1) 予報内容
 - 発生程度 やや多
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月上旬の巡回調査の結果、発病株率は3.4% (2.1%)、発生圃場数は18筆中7筆であった。
 - (2) 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発病株率は44.0% (1.4%)であった。

2. ハスモンヨトウ

- 1) 予報内容
 - 発生程度 多
- 2) 予報の根拠
 - (1) 9月上旬の巡回調査の結果、幼虫の寄生株率は25.0% (9.2%)、株当たり虫数は0.8頭(0.6頭)、発生圃場数は18筆中14筆であった。
 - (2) 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は12.0% (34.3%)、株当たり虫数は1.5頭(1.3頭)であった。
 - (3) フェロモントラップ(諫早市)の誘殺量は9月1半旬以降急増し、平年より多くなった(図)。
 - (4) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり本虫の発生に好適である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - 平成16年8月13日付け、病害虫発生予察 注意報第5号参照



3. 吸実性カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 9月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.8% (0.9%)、株当たり虫数は0.01頭 (0.01頭)であった。

(2) 9月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、寄生株率は2.0% (1.1%)、株当たり虫数は0.02頭 (0.01頭)であった。

(3) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

稚莢期から莢肥大期にかけて、他の害虫との同時防除を行う。

【いちご】 (定植前の苗を対象に調査)

1. うどんこ病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査の結果、発病は認めなかった(0.0%)。

2. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

(1) 9月上旬の巡回調査の結果、*C. acutatum*による発病株率は0.8% (2.0%)で、発生圃場数は33筆中1筆であった。また、*G. cingulata*による発病株率は0.2% (0.4%)で、発生圃場数は33筆中5筆であった。

3. アブラムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 9月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は0.6% (0.8%)で、発生圃場数は33筆中4筆であった。

(2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期に防除する。とくに、寄生苗をハウス内に持ち込むと多発しやすいので、定植前の防除を徹底する。

(2) 新葉や芽部、顎部に多く寄生するので、薬剤散布に当たっては重点的に防除する。

(3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ハダニ類

平成16年9月15日付、病虫害発生予察 防除情報第10号による。

6. ハスモンヨトウ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 9月上旬の巡回調査の結果、食害株率は4.1% (7.3%)、食害発生圃場数は33筆中17筆であった。

(2) フェロモントラップ(諫早市)における誘殺数は、9月1半旬から急増しており、大豆など他作物での発生も増加している(大豆を参照)。

(3) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

平成16年8月13日付、病虫害発生予察 注意報第5号参照。

【かんきつ】

1. 青かび病、緑かび病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

台風18号(9月7日)の影響で傷害果が多いと考えられる。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 収穫時の傷から感染しやすいので、果実にはサミ傷等をつけないように丁寧に扱う。
- (2) 樹上の傷害果や落下した果実は園外へ持ち出し処分する。
- (3) 輸送中の発病を予防するために収穫前に十分量の薬剤を散布する。

2. ミカンハダニ

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

- (1) 9月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は1.1%(18.0%)、発生圃場数は39筆中9筆であった。
- (2) 向こう1か月間の気温は平年より高い見込みで本虫の発生に好適である。

3. チャノキイロアザミウマ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

- (1) 9月上旬の巡回調査の結果、果頂部の被害果率は2.8%(3.5%)、発生圃場数は39筆中16筆であった。
- (2) 9月上旬の県予察圃場調査の結果、慣行防除区での果頂部の被害果率は34.0%(9.1%)であった。

3) 防除上注意すべき事項

本年の成虫の発生は平年より早めに推移しており、9月下旬に第8世代成虫の発生ピークが出現すると予想されるので、圃場での発生に留意し、1果実あたりの寄生虫数が0.3~0.5頭に達すると薬剤散布を行う。ただし、収穫期が間近に迫った極早生温州では薬剤散布は行わない。

4. カメムシ類

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

フェロモントラップ(諫早市)及び予察灯(西彼町)による誘殺量は平年よりやや少ない(図)。

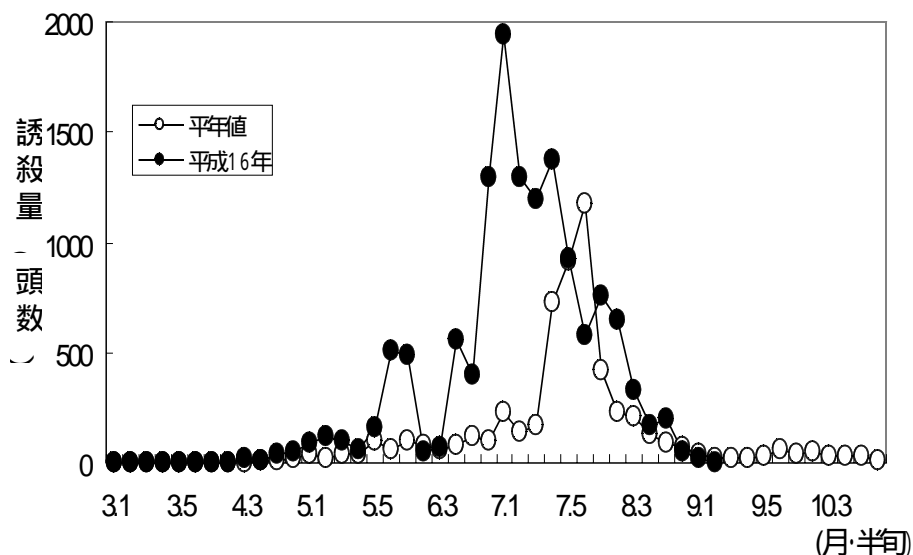


図 カメムシ類(ヤバネ+ツアオ)のフェロモントラップ(黄色コガネコール)による誘殺量(諫早市)
平年値:平成11~15年の平均

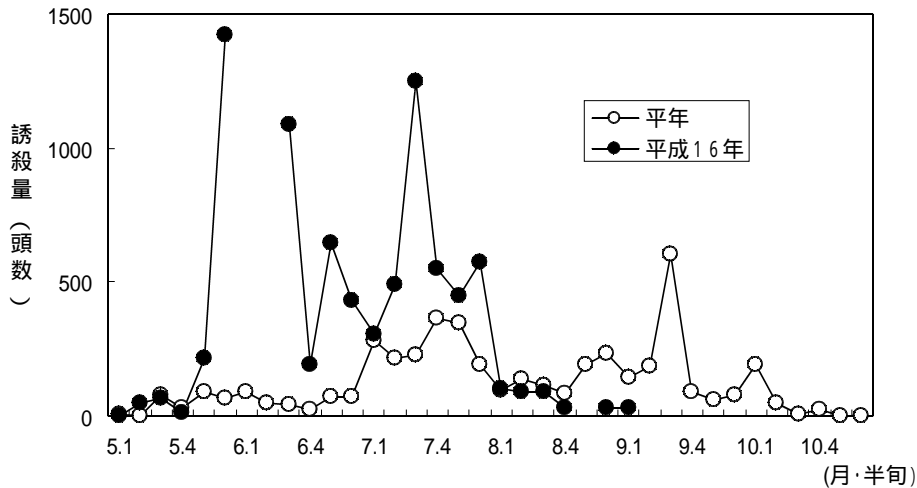


図 果樹カメムシ類(チャハネ+ツアア)の予察灯(青)誘殺量(西彼町)
 平年値:平成9～15年

【 茶 】

1. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 少

2) 予報の根拠

9月上旬の巡回調査の結果、1㎡当り病葉数は0.8枚(11.7枚)、発生圃場数は20筆中7筆であった。

2. チャノココクモンハマキ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

(1) 9月上旬の巡回調査の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(0.2枚)、発生圃場数は20筆中2筆であった。

(2) 本年のフェロモントラップ(東彼杵茶業支場調査)による誘殺量は、平年並である(図)。

(3) 向こう1か月間の気温は平年より高い見込みで本虫の発生に好適である。

3) 防除上注意すべき事項

雌成虫の発蛾最盛期から7～10日後に薬剤散布すると効果が高い。

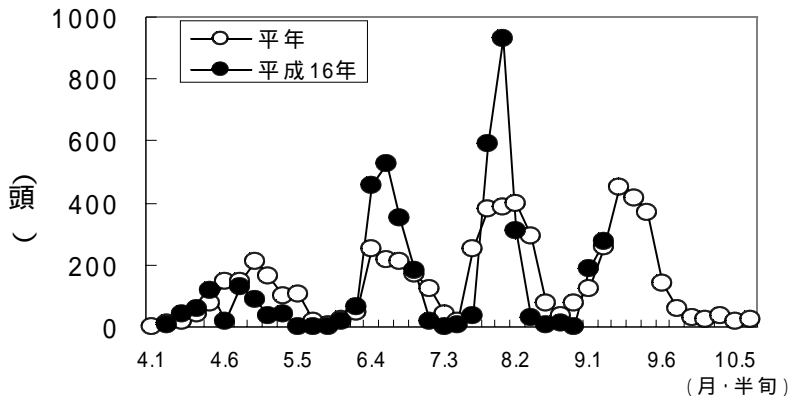


図 チャノココクモンハマキの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)
 * 平年値は平成7～15年の平均)

3. チャノホソガ

1) 予報内容

発生程度 やや多

- 2) 予報の根拠
- (1) 9月上旬の巡回調査の結果、1㎡当たり巻葉数は0.1枚(1.1枚)、発生圃場数は20筆中1筆であった。
 - (2) 本年のフェロモントラップ(東彼杵茶業支場調査)による誘殺量は、平年並である(図)。
 - (3) 向こう1か月間の気温は平年より高い見込みで本虫の発生に好適である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 チャノキイロアザミウマやチャノコカクモンハマキとの同時防除で対応する。

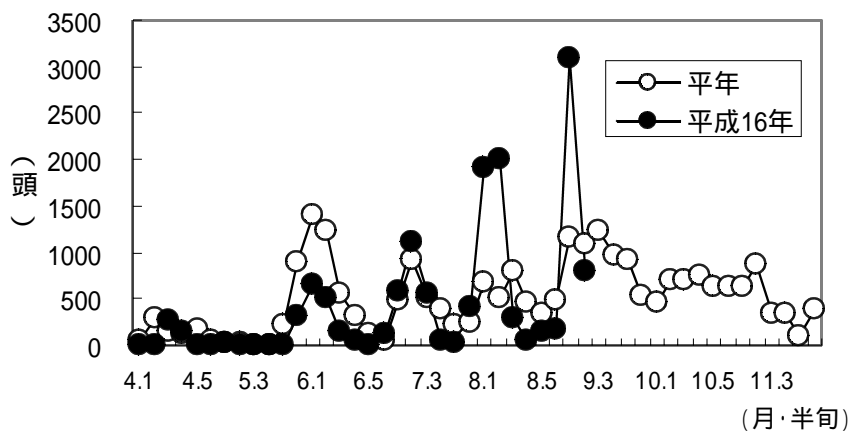


図 チャノホソガの誘殺状況(東彼杵:フェロモントラップ)
 * 平年値は平成7～15年の平均

【つつじ】

1. 褐斑病
- 1) 予報内容
 発生程度 やや少
 - 2) 予報の根拠
 9月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は0.6%(4.3%)、発生圃場数は11筆中4筆であった。
2. ツツジグンバイ
- 1) 予報内容
 発生程度 並
 - 2) 予報の根拠
 (1) 9月上旬の巡回調査の結果、10株当たりの寄生虫数は0.1頭(0.9頭)、発生圃場数は11筆中1筆であった。
 (2) 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。